



青龍だより



離任式

4月2日(金)

今春の定期人事異動で太田一高を去られることになった先生方を招いて、離任式が行われました。離任される先生方から、熱い言葉を頂きました。



始業式

4月6日(火)

始業式が行われました。新校長からの「わくわくする学校」という話に、生徒たちは目を輝かせていました。また、始業式に先立って行われた新任式では、新たに太田一高・附属中に来られた先生方の紹介がありました。



入学式

4月7日(水)

令和3年度入学式が行われ、全日制153名、定時制4名、附属中40名が本校に入学しました。入学式の翌日には在校生との対面式があり、毎年恒例の質問コーナーでは新入生からの質問に対し、在校生がユーモアを交えた解答をして盛り上がりました。また、本校の生活に少しでも早く慣れるよう、新入生に対して入学式の翌日からの3日間のオリエンテーションが実施されました。



生徒面談

4月13日(火)
～19日(月)

面談期間が1週間設けられ、生徒と担任の先生で、面談が行われました。生徒たちは、新しい年次やクラスでの期待や不安、進路目標など、思いを先生に伝えていました。



高校より

総合的な探究の時間 4月16日(金)

本校では、今年度の学習活動の一つの柱として探究活動を掲げています。本年度の総合的な探究の時間のスタートとして、茨城大学とオンラインで結び、柴原宏一特命教授らに探究活動の意義をお話いただきました。



先生からのメッセージ

～Messages from Teachers～

教員になって30年。大学時代、工学部で金属材料について研究していた私は、教員免許が取得できたこともあり、企業ではなく教職の道へ進みました。今思うと大きな選択だったと思います。企業へ就職していたら、生活も出会う人も違っていただろうと考えると、どちらが良かったのか…。年のせいか最近よく考えます。さて、若いみなさんは、これからどんな人生を送ることになるのでしょうか。どんな未来が楽しみです。

【学習研究部 部長 細谷】



“Necessity is the mother of invention.”

(from Gulliver's Travels by Jonathan Swift)



校長 鈴木清隆

皆さんが活躍する未来の社会 Society 5.0 では創造性が重要になります。

先月号の本欄でも触れたトーマス・エジソンは、生涯におよそ1,300もの発明を行いました。「私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまく行かない方法を見つけただけだ。」という言葉が示すように、これらの発明は膨大な試行錯誤を経て成し遂げられたものです。創造性が発揮されるためには、挑戦を続ける動機や

意欲、そして失敗を許容する環境が必要であることを教えてくれます。

「Necessity is the mother of invention. (必要は発明の母)」は風刺作家ジョナサン・スウィフトが『ガリバー旅行記』の中で使った言葉ですが、エジソンが良く引用したことで知られます。瞬時に消えてしまう音を記録し、後で再生したいという欲求が蓄音機を生み出し、映像を記録・再生したいという需要がキネトスコープを生み出したように、不自由や不便を解消したいという願望が、新しい発明や工夫を生み出す原動力になることを表しています。「こんな風になりたい、こんなことをしてみたい」と思った瞬間こそ、創造の入り口かもしれません。

あまり知られていないのですが、エジソンは電気自動車(EV)も設計していました。1910年9月には彼が発明したニッケル鉄蓄電器(バッテリー)を搭載した馬車型のEVで、充電を繰り返しながらではありましたが、ニューヨークからニューハンプシャーまでの約1,600キロを走破しています。車載バッテリーは現在も改良が進められています。エジソンのデモンストレーションから110年後に登場したテスラ社(米国のEVメーカー)のモデルSプレイドと呼ばれる最新型のEVには大容量のリチウムイオン電池が搭載され、1回の充電で837km以上走行します。しかも、最高速度、加速性能ともにガソリン車を含む量産車の中で世界トップの性能を誇ります。また、リチウムイオン電池は、旅客機からスマホまで幅広く利用されることで新しい価値を生み出し、社会の発展に寄与しています。現状の課題を見つけ、理想に近づけるための工夫や試行を続けることは、創造的活動そのものです。本校は皆さんの創造的挑戦を応援します。

附属中より

入学式～新たなスタート～ 4月7日(水)

附属中学校第2期生が入学しました。入学式では緊張していた生徒たち。教室に戻って担任の先生と過ごしているうちにすっかり緊張もほぐれて、笑い声も聞こえてくる温かな雰囲気が感じられました。



生徒一人一人に新しい教科書や一人1台のchromebook(ノートPC)も配付されました。ちょっと重たい…かもしれませんが、生徒たちがもっている様々な力をステップアップさせていくことは間違いありません。



校長講話 1年: 4月13日(火) 2年: 16日(金)



今年度から校長になられた鈴木清隆校長先生が教室を訪問し、新年度スタートにあたって、生徒たちに向けての思いを語っていただきました。ご自身の経験談を織り交ぜながら、「こんな生徒になってほしい。」という願いを伝えていただきました。校長先生の問いかけに対し、自分の考えを話す生徒や、逆に質問する生徒もいて活気にあふれていました。